

避難訓練や防災に活用してほしい

小学校へ防災ずきんを寄贈

4月4日、日野町日赤奉仕団から根雨小学校と黒坂小学校の1・2年生へ防災ずきんが贈られました。

これは、日野町日赤奉仕団が毎年老人福祉施設へ寄贈しているもので、小学校へは今回は初めてとなります。

防災ずきんは、カーテンや布団の裏地、着物など、地域の住民からの寄付により提供された生地を使い、すべて手作りによるものです。防災ずきんの中には、マスク、タオル、ばんそうこう、ティッシュ



いざというとき役立てて

やビニール袋が入っており、特にビニール袋については、防寒・着替え・トイレの代用など、東日本大震災で実際に役立ったことから入れられました。

日野町日赤奉仕団の船越伸子さん（黒坂）は「防災の啓発に活用してほしい。すべて手作りのため、一度に多くは作れないが今後も続けていきたい」と話しました。

防災ずきんを贈られた児童は、ずきんを頭にかぶり、笑顔やピースサインをするなど、うれしそうにしていました。



防災ずきんをかぶり、笑顔でピース

地域への感謝を込めて

ごうぎん一粒の麦の会が車いすを寄贈

地域社会等へ感謝の気持ちを込め、ごうぎん一粒の麦の会が、4月14日、社会福祉法人日翔会（特別養護老人ホームあいご・根雨）へ車いすを寄贈しました。

ごうぎん一粒の麦の会は、昭和56年、山陰合同銀行および同グループの役員有志により発足し、年2回の募金活動や寄付活動を通じて、社会福祉関係先へ車いすなどを寄贈しています。

車いすを寄贈された、社会福祉法人日翔会の松本敏紀事業部長は「車いすは消耗品だが、職員みんなで手入れをして大事に使っていきたい」と話しました。



寄贈された車いすに座り記念写真



素早い放水をする第1分団

訓練で培った技術を披露

町消防ポンプ操作大会

消防団が消防ポンプの操作技術を競う町消防ポンプ操作大会が、4月20日、ひのっこ保育所で開かれました。

競技内容は、ポンプ車を操作して、標的に向かって放水し、終了するまでの規律動作や時間を競うもので、多くの見物人が見守る中、日ごろの訓練で培った技術を披露しました。

結果は、町内に3つある分団のうち、第1分団が優勝しました。



思い出話に花が咲く

ひの郷会・奥渡会大阪城花見会

関西地区在住の、日野町出身者のみなさんによる「ひの郷会」と「奥渡会」の花見会が、4月13日、大阪城公園で開かれました。

当日は、約30人が参加。両会の会員だけでなく、その家族や同じ日野町出身で関西在住の同級生が集まりました。ひの郷会の小谷誠代表世話人が「今回参加した人の中には、今日初めて会った



みんなでワイワイ



再会を約束し記念写真

人もいるので、自己紹介をしよう」と話すと、参加者は名前や出身集落、近況などを報告し合いました。

日野町からは、景山町長らが参加し、持参した山菜料理を振る舞ったほか、参加者もそれぞれ手作り弁当などを持ち寄りみんなで味わいました。

当日は、葉桜で満開の中での花見とはなりませんでした。参加者それぞれが懐かしい話や思い出話などに花を咲かせた花見会となりました。

ふるさとのことば
～日野弁なんずかんず～ 第10回

「うしろ」

「うしろ」といえば、もはや時代劇の中でしか聞かれない表現だと思う人もあるでしょうが、ここ日野地域では、まだまだ現役で活躍中です。ただ、「来てござる（来られている）」、「してござる（されている）」など、時代劇とは多少使い方が違います。

時代とともに言葉も変わっていきますが、地方の小さなまちには、昔ながらの言葉が今も息づいているのです。

日野弁ピックアップ「声」

いがる… 大声を出す。声を枯らすような叫び。
 おおごえをする… 叫ぶ。大声を出す。
 こえする… 声を掛ける。呼ぶ。
 そーどーする… 騒ぐ。 ほえる… 泣く。
 よおいわんわあ… (呆れて) ものが言えない。

協力：日野町歴史民俗資料館友の会



自分の腕を信じてパドルをこぐ

日野川を舞台に腕前を競う 第31回鳥取県カヌー選手権大会

日野川を舞台に、4月13日、第31回鳥取県カヌー大会が開かれ、県内外から32名の選手が参加し、日ごろから鍛えてきたカヌーの腕前を披露しました。

大会では、日野町下菅の恩田晃壮さんが、C-1クラスで2位、ジュニアK-1クラスで3位という好成績を収めました。

また、観客からは、選手らが日野川の荒い瀬を見事なパドルさばきで下っていく姿に大きな声援が送られていました。